

**自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童の  
算数科の学習に関する調査**

**《調査票ご記入にあたってのお願い》**

以下の事項についてご留意いただき、ご記入をお願いいたします。

**●記入方法について**

**1. 本アンケートにご回答いただく方**

貴校の自閉症・情緒障害特別支援学級を担任されている方（非常勤講師や介助員は含みません）にご記入をいただくようお願いいたします。

なお、算数科の指導において特別支援学級の担任以外の先生が携わっている場合（算数科の授業を交流及び共同学習の学級で受けているなど）は、担当の先生とご相談のうえ本調査票にご回答ください。

貴校に自閉症・情緒障害特別支援学級が複数設置されている場合は、お手数ですが、1学級ごとに本調査用紙を1部コピーしていただき、ご回答ください。

**2. 本調査票への回答の方法**

ご回答いただく児童については、以下の条件を満たす児童を1名取り上げてください。

- ① 貴校の自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童
- ② 主として当該学年の算数の教科書の内容を学習していること

貴校に自閉症・情緒障害特別支援学級が設置されていない、あるいはご担当の学級に上記条件に該当する児童が在籍していない場合は、本調査にご回答いただかなくて結構です。

自閉症・情緒障害特別支援学級の設置状況と自閉症のある児童の在籍状況を把握したいので、該当されない場合にはお手数ですが本表紙裏面のファックス送信票をご返送ください。

**●ご回答、ご返送いただいた情報の取扱と結果の公表について**

結果の公表にあたっては、学校名や個人が特定できないように統計的な処理を行います。また、調査結果につきましては、別途、web上でご報告いたします。

**●締め切り**

同封の返信用封筒にて、**平成25年1月25日（金）まで**にご返送いただきますようお願いいたします。

以上、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

**【問い合わせ先】**

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所  
 〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1  
 教育情報部主任研究員 岡本 邦広（研究代表代行）  
 TEL:046-839-6932（直通）  
 E-mail:okamoto@nise.go.jp  
 教育情報部研究員 柳澤 亜希子（研究副代表）  
 TEL/FAX:046-839-6876（直通）  
 E-mail:yanagisawa@nise.go.jp

# F A X 送信票

\* 貴校に自閉症・情緒障害特別支援学級が設置されていない、あるいは、ご担当の学級に本調査に該当する児童が在籍していない場合、本送信票をご返送ください。

送信日 月 日

## 【送信先】

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 教育情報部

柳澤 亜希子 宛

FAX: 0 4 6 - 8 3 9 - 6 8 7 6

件名：自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童の算数科の学習に関する調査について（回答）

該当する項目にチェックをしてください。

本校には、自閉症・情緒障害特別支援学級は設置されていません。

本学級には、調査対象に該当する児童は在籍していません。

## 【発信先】

学校名 \_\_\_\_\_

連絡先（TEL） \_\_\_\_\_

貴校の学校名及び調査票に回答された方のお名前等をご記入ください。

学校名	立 小学校
	連絡先 住 所： 電話番号：
記入者氏名	

I. 貴校の自閉症・情緒障害特別支援学級についてお尋ねします。

1-1. 貴校に設置されている自閉症・情緒障害特別支援学級の学級数をご記入ください。

( ) 学級

1-2. 自閉症・情緒障害特別支援学級を担任されている先生の人数をご記入ください。

( ) 名

1-3-1. 自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する児童の各学年の内訳をご記入ください。(在籍児童がない場合は、「0」を記入してください)。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
在籍児童数(名)						

1-3-2. 1-3-1の各学年に在籍する児童のうち、自閉症のある児童の人数をご記入ください(在籍児童がない場合は、「0」を記入してください)。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
自閉症のある児童数(名)						

Ⅱ. 本調査票にご記入いただいている方の「教員経験年数」と「所有する免許状」についてお尋ねします。

2-1. 「教員経験年数」と「自閉症・情緒障害特別支援学級の経験年数」をご記入ください。また、「知的障害特別支援学級」、「特別支援学校（養護学校）」、「通級による指導」、「通常の学級」の経験の有無と「経験あり」の場合には、その年数を括弧内にご記入ください。ただし、年数には、非常勤講師の年数は含みません。また、「経験あり」の場合には、自閉症のある児童生徒を担当した経験の有無について該当する項目に○をつけてください。

2-1-1. 教員経験年数	( ) 年
2-1-2. 自閉症・情緒障害特別支援学級の経験年数	( ) 年
2-1-3. ①知的障害特別支援学級の経験年数	( ) 1. 経験あり ( ) 年 ( ) 2. 経験なし
②知的障害特別支援学級で自閉症のある児童生徒を担当した経験の有無	( ) 1. 経験あり ( ) 2. 経験なし
2-1-4. ①特別支援学校（養護学校）の経験年数	( ) 1. 経験あり ( ) 年 ( ) 2. 経験なし
②特別支援学校（養護学校）で自閉症のある児童生徒を担当した経験の有無	( ) 1. 経験あり ( ) 2. 経験なし
2-1-5. ①通級による指導の経験年数	( ) 1. 経験あり ( ) 年 ( ) 2. 経験なし
②通級による指導で自閉症のある児童生徒を担当した経験の有無	( ) 1. 経験あり ( ) 2. 経験なし
2-1-6. ①通常の学級の経験年数	( ) 1. 経験あり ( ) 年 ( ) 2. 経験なし
②通常の学級で自閉症のある児童生徒を担当した経験の有無	( ) 1. 経験あり ( ) 2. 経験なし

2-2. 所有されている免許状についてお尋ねします。該当する項目に○をつけてください。

- ( ) 1. 小学校教諭普通免許状
- ( ) 2. 中学校教諭普通免許状（数学）
- ( ) 3. 高等学校教諭普通免許状（数学）
- ( ) 4. 特別支援学校（養護学校）教諭普通免許状

Ⅲ. 担当されている自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する児童で、下記の条件に該当する自閉症のある児童（1名）についてお尋ねします（該当する項目に○をしてください）。

※ご回答いただく児童については、以下の条件を満たす者を1名取り上げてください。

- ①貴校の自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童
- ②主として当該学年の算数の教科書の内容を学習していること

3-1. 本児童の学年をご記入ください。

( ) 年

3-2. 本児童の性別をご記入ください（該当する項目に○をつけてください）。

( ) 1. 男

( ) 2. 女

3-3-1. 本児童の医学的診断の有無をご記入ください（該当する項目に○をつけてください）。

( ) 1. 診断あり

( ) 2. 診断なし

3-3-2. 3-3-1で「診断あり」と回答した方にお尋ねします。本児童の診断名をご記入ください（該当する項目に○をつけてください）。「その他」を選択された方は、括弧内に診断名をご記入ください。

( ) 1. 自閉症

( ) 2. アスペルガー症候群（アスペルガー障害）

( ) 3. 高機能自閉症

( ) 4. 広汎性発達障害

( ) 5. その他（ )

3-4-1. 本児童の知能検査の有無をご記入ください（該当する項目に○をつけてください）。

( ) 1. 行っている

( ) 2. 行っていない

3-4-2. 3-4-1で「1. 行っている」を選択された方にお尋ねします。本児童に行われた知能検査の種類とIQ、検査実施時の年齢及び学年をご記入ください。

知能検査の種類 ( ) IQ ( ) 年齢 ( ) 歳 学年 ( ) 年

知能検査の種類 ( ) IQ ( ) 年齢 ( ) 歳 学年 ( ) 年

知能検査の種類 ( ) IQ ( ) 年齢 ( ) 歳 学年 ( ) 年

3-5. 本児童が、学校生活を送る上で必要な支援の程度として該当する項目に○をつけてください。

- ( ) 1. 必要に応じて支援
- ( ) 2. 特定の環境において常時支援が必要
- ( ) 3. 様々な環境において常時支援が必要

IV. Ⅲで回答いただいた児童に適用されている算数科及び国語科の指導内容についてお尋ねします。

4-1-1. 本児童に適用している算数科の指導内容をご記入ください（該当する項目に○をつけてください）。

- ( ) 1. すべて当該学年の指導内容を適用
- ( ) 2. 一部、下学年の指導内容を適用

4-1-2. 4-1-1で「2. 一部、下学年の指導内容を適用」を選択された方は、該当する領域を選択してください。また、その領域で適用している下学年の学年をご記入ください。

- ( ) 1. 数と計算  
適用している下学年の学年 ( ) 年
- ( ) 2. 量と測定  
適用している下学年の学年 ( ) 年
- ( ) 3. 図形  
適用している下学年の学年 ( ) 年
- ( ) 4. 数量関係  
適用している下学年の学年 ( ) 年

4-2. 本児童に適用している国語科の指導内容をご記入ください（該当する項目に○をつけてください）。

- ( ) 1. すべて当該学年の指導内容を適用
- ( ) 2. 一部、下学年の指導内容を適用

V. Ⅲで回答いただいた児童の算数科における交流及び共同学習の状況についてお尋ねします。

5-1-1. 本児童の算数科における交流及び共同学習の実施状況について、該当する項目に○をつけてください。

- ( ) 1. すべて交流先（通常の学級）で学習している
- ( ) 2. 主に交流先（通常の学級）で学習している
- ( ) 3. 主に特別支援学級で学習している
- ( ) 4. すべて特別支援学級で学習している
- ( ) 5. その他 ( )

5-1-2. 5-1-1で「3. 主に特別支援学級で学習している」または、「4. すべて特別支援学級で学習している」を選択された方にお尋ねします。その理由として該当する項目に○をつけてください。「その他」を選択された方は、括弧内にその理由をご記入ください（複数回答可）。

- ( ) 1. 本児童の自閉症の特性から派生する心理面や行動面等の問題に配慮するため
- ( ) 2. 本児童の算数科の習得状況に応じるため
- ( ) 3. 交流先において本児童の受け入れ体制が十分ではないため
- ( ) 4. その他 ( )

**VI. 本児童の算数科の習得状況と算数科の学習を行う上で認められる特徴についてお尋ねします。**

6-1. 本児童の算数科の4領域（「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」）と「算数的活動」の習得状況についてお尋ねします。

該当学年の各領域等で、すでに学習した内容について下枠【A欄】の1～4の該当するいずれかの番号を括弧内に記入してください。

注1) 本児童が下学年の内容を適用している場合は、そちらの学年についてもご回答ください。

注2) 【A欄】の1～4のうちで本児童の習得状況を回答することが難しい場合は、【B欄】のa～cのいずれかの該当する理由を選択し、a～cの英字を括弧内に記入してください。

【A欄】
1. よくあてはまる
2. まあまああてはまる
3. あまりあてはまらない
4. まったくあてはまらない

【B欄】
a. 習得の状況を把握できておらず、わからない
b. 年間指導計画に予定しているが、現時点では未学習
c. 年間指導計画に予定しておらず、本児童では取り上げない

**【1年生】**

**①「数と計算」**

- ( ) 1. ものとものを対応させて、ものの個数を比べることができる
- ( ) 2. 個数や順番を正しく数えたり表したりすることができる
- ( ) 3. 数の大小や順序を考えることによって数の系列を作ることができる
- ( ) 4. 数の大小や順序を数直線上に表すことができる
- ( ) 5. 8は5と3の和や10から2を引いた差でも8になるというように、一つの数を他の数の和や差としてみるなど、他の数と関係づけて考えることができる
- ( ) 6. 2位数の表し方を理解することができる

- ( ) 7. 簡単な3位数の表し方を理解することができる
- ( ) 8. 十を数の単位としてみることができる
- ( ) 9. 加法が用いられる場合について理解することができる
- ( ) 10. 減法が用いられる場合について理解することができる
- ( ) 11. 1位数と1位数との加法の計算が確実にできる
- ( ) 12. 1位数と1位数との減法の計算が確実にできる
- ( ) 13. 簡単な2位数の加法の計算の仕方を考えることができる
- ( ) 14. 簡単な2位数の減法の計算の仕方を考えることができる
- ( ) 15. 一の位、十の位を理解することができる

## ②「量と測定」

- ( ) 1. 長さ、面積（広さ）、体積（かさ）を直接比べることができる
- ( ) 2. 身の回りにあるものの大きさを単位としてその幾つ分かで大きさを比べることができる
- ( ) 3. 日常生活の中で時刻を読むことができる

## ③「図形」

- ( ) 1. ものの形を認めたり、形の特徴をとらえることができる
- ( ) 2. 前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を正しく用いて、ものの位置を言い表すことができる

## ④「数量関係」

- ( ) 1. 加法が用いられる場面を式に表すことができる（例：「りんごが2個あります。りんごをもう2個もらいました。全部で何個ありますか」について、 $2 + 2 = 4$ と立式できる）
- ( ) 2. 減法が用いられる場面を式に表すことができる（例：「りんごが全部で5個ありました。2個食べました。残りは何個になりましたか」について、 $5 - 2 = 3$ と立式できる）
- ( ) 3. 加法が用いられる場面の式を読み取ることができる（例： $2 + 3 = 5$ から「2本鉛筆があります。お母さんに3本買ってもらいました。全部で何本ありますか」と作問できる）
- ( ) 4. 減法が用いられる場面の式を読み取ることができる（例： $5 - 3 = 2$ から「アイスが5個ありました。3個食べました。アイスはいくつ残っていますか」と作問できる）



( ) 5. ものの個数を絵や図などで表すことができる

( ) 6. 絵や図などからものの個数を読み取ることができる

**⑤「算数的活動」**

( ) 1. 具体物をまとめて数えたり、等分することができる

( ) 2. 具体物をまとめて数えたり、等分したことを数字や数式に表すことができる

( ) 3. 計算の意味や計算の仕方について具体物を用いたり、言葉、数、式、図で表すことができる

( ) 4. 身の回りにあるものの長さ、面積、体積を他のものを用いて比べたりすることができる

( ) 5. 身の回りからいろいろな形を見つけたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができる

## 【2年生】

1. 該当学年の各領域等で、すでに学習した内容について下枠【A欄】の1～4の該当するいずれかの番号を括弧内に記入してください。
2. 【A欄】の1～4のうちで本児童の習得状況を回答することが難しい場合は、【B欄】のa～cのいずれかの該当する理由を選択し、a～cの英字を括弧内に記入してください。

### 【A欄】

1. よくあてはまる
2. まあまああてはまる
3. あまりあてはまらない
4. まったくあてはまらない

### 【B欄】

- a. 習得の状況を把握できておらず、わからない
- b. 年間指導計画に予定しているが、現時点では未学習
- c. 年間指導計画に予定しておらず、本児童では取り上げない

## ①「数と計算」

- ( ) 1. 同じ大きさの集まり(2、5、10ずつ)にまとめて数えることができる
- ( ) 2. ものの色や形に分類して数えることができる
- ( ) 3. 4位数までの十進位取り記数法による数の表し方ができる
- ( ) 4. 4位数までについて数の大小を理解することができる(例:  $980 > 890$ )
- ( ) 5. 4位数までについて数の順序を理解することができる
- ( ) 6. 十や百などを単位として、数の大きさをとらえることができる(例: 6000は10が600個集まった数)
- ( ) 7. 一つの数をほかの数の積としてみるすることができる(例: 12は $2 \times 6$ 、 $3 \times 4$ など)
- ( ) 8.  $\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{4}$ など簡単な分数を理解することができる
- ( ) 9. 2位数同士の繰り上がりのない加法の計算ができる
- ( ) 10. 2位数同士の繰り上がりのある加法の計算ができる
- ( ) 11. 2位数同士の繰り下がりのない減法の計算ができる
- ( ) 12. 2位数同士の繰り下がりのある減法の計算ができる
- ( ) 13. 簡単な3位数の加法の計算ができる(例:  $300 + 200$ )
- ( ) 14. 簡単な3位数の減法の計算ができる(例:  $700 - 400$ )
- ( ) 15. 1位数と1位数との乗法の計算ができる
- ( ) 16. 2位数と1位数の乗法の計算ができる(例:  $4 \times 10$ 、 $5 \times 12$ )

## ②「量と測定」

- ( ) 1. 長さの単位 (mm、cm、m) を理解することができる
- ( ) 2. 体積の単位 (ml、dl、l) を理解することができる
- ( ) 3. 時間の単位 (日、時、分) を理解することができる

## ③「図形」

- ( ) 1. 三角形や四角形を理解することができる
- ( ) 2. 長方形、正方形や直角三角形を理解することができる
- ( ) 3. 箱の形は、頂点・辺・面から構成されていることを理解することができる

## ④「数量関係」

- ( ) 1. 乗法が用いられる場面を式に表すことができる (例: 「1袋に5個ずつ入ったみかんが4袋あります。全部でみかんは何個ありますか」について、 $5 \times 4 = 20$  と立式できる)
- ( ) 2. 乗法が用いられる場面の式を読み取ることができる (例:  $3 \times 4$  から「プリン3個ずつ入ったパックが4パックあります。プリンは全部でいくつですか」という作問ができる)
- ( ) 3. 身の回りにある数量を分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表すことができる
- ( ) 4. 簡単な表やグラフから特徴を読み取ることができる

## ⑤「算数的活動」

- ( ) 1. 加法と減法の相互関係を図や式で表すことができる (例: 「はじめにりんごがいくつあって、5個もらったら12個になった。はじめにいくつあったか」に対して、立式  $12 - 5 = 7$  をしたり、 $\square + 5 = 12$  の図をかくことができる)
- ( ) 2. 加法と減法の相互関係を説明することができる (例: 「全部で12個から5個をとると7個」ということから、「12」「-」「5」と場面を関連づけたり、図で「□」「5」「12」と対応させることができる)
- ( ) 3. 身の回りから、整数が使われている場面を見つけることができる (例: カレンダー、物の値段、自動車のナンバーなど)
- ( ) 4. 九九表を自分で作ったり見たりして、計算の性質やきまりを見つけることができる
- ( ) 5. 身の回りにあるものの長さや体積について、おおよその見当をつけることができる
- ( ) 6. 身の回りにあるものの長さや体積について、単位を用いて測定することができる
- ( ) 7. 正方形、長方形、直角三角形をかいたり、作ったりして、それらで平面を敷き詰めることができる

### 【3年生】

1. 該当学年の各領域等で、すでに学習した内容について下枠【A欄】の1～4の該当するいずれかの番号を括弧内に記入してください。
2. 【A欄】の1～4のうちで本児童の習得状況を回答することが難しい場合は、【B欄】のa～cのいずれかの該当する理由を選択し、a～cの英字を括弧内に記入してください。

#### 【A欄】

1. よくあてはまる
2. まあまああてはまる
3. あまりあてはまらない
4. まったくあてはまらない

#### 【B欄】

- a. 習得の状況を把握できておらず、わからない
- b. 年間指導計画に予定しているが、現時点では未学習
- c. 年間指導計画に予定しておらず、本児童では取り上げない

### ①「数と計算」

- ( ) 1. 万の単位について数字を用いて表すことができる
- ( ) 2. 3位数や4位数の加法の計算ができる
- ( ) 3. 3位数や4位数の減法の計算ができる
- ( ) 4. 2位数や3位数の乗法（3位数×2位数など）の計算ができる
- ( ) 5. 除数が1位数で被除数が2位数であり、商が1位数や2位数となる簡単な除法の計算ができる（例： $30 \div 3 = 10$ 、 $13 \div 4 = 3 \cdots 1$ ）
- ( ) 6. 小数の意味が分かり、小数点を用いて数を表すことができる
- ( ) 7. 小数の加法の計算ができる
- ( ) 8. 小数の減法の計算ができる
- ( ) 9. 分数の意味が分かり、 $\frac{2}{3}$ などの数を表すことができる
- ( ) 10. 簡単な分数の加法の計算ができる（例） $\frac{1}{5} + \frac{2}{5} = \frac{3}{5}$
- ( ) 11. 簡単な分数の減法の計算ができる（例） $\frac{3}{5} - \frac{1}{5} = \frac{2}{5}$
- ( ) 12. そろばんの5の珠と1の珠を用いて数を表すことができる
- ( ) 13. そろばんで万の単位の数や $\frac{1}{10}$ の数を表すことができる
- ( ) 14. そろばんを用いて簡単な加法ができる
- ( ) 15. そろばんを用いて簡単な減法ができる

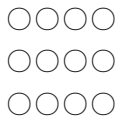

## ②「量と測定」

- ( ) 1. 長さの単位 (km) を理解することができる
- ( ) 2. 重さの単位 (g, kg, t) を理解することができる
- ( ) 3. 長さや重さについて、おおよその見当をつけることができる
- ( ) 4. 長さや重さについて目的に応じて計器を適切に選んで測定することができる
- ( ) 5. 時間の単位 (秒) を理解することができる
- ( ) 6. 時刻と時間が分かり、時計を操作して必要となる目的の時刻やかかった時間を求めることができる

## ③「図形」

- ( ) 1. 二辺の長さが等しい三角形が、二等辺三角形であることを理解することができる
- ( ) 2. 三辺の長さが等しい三角形が、正三角形であることを理解することができる
- ( ) 3. 角の用語と位置が分かり、角の大きさを比べることができる
- ( ) 4. 円や球の形を理解することができる
- ( ) 5. 円や球の中心、半径、直径を理解することができる

## ④「数量関係」

- ( ) 1. 除法が用いられる場面を式に表すことができる (例: 「12 個のあめを 3 人に同じ数ずつ分ける」について、 $12 \div 3 = 4$  と立式できる)
- ( ) 2. 除法が用いられる場面の式を読み取ることができる (例:  $15 \div 3 = 5$  から「みかんが 15 個あります。3 個ずつ分けると何人に分けられますか」と作問できる)
- ( ) 3. 数量の関係を式に表したり、式と図を関連づけたりすることができる  
例)  $3 \times 4$   $\longleftrightarrow$    
 $3 \times 4$   $\longleftrightarrow$  
- ( ) 4. 数量を□などを用いて表し、その関係を式に表すことができる (例:  $\square + 8 = 17$ )
- ( ) 5. □などを用いた式に数を当てはめて、当てはまる数を調べることができる  
(例:  $\square + 8 = 17$  の□に 17 になる数を当てはめていく)
- ( ) 6. 身の回りにある事象について目的に応じて日時や場所などの観点を定めることができる
- ( ) 7. 観点に基づいて資料を分類整理することができる

- ( ) 8. 数値化したことを表やグラフを用いて分かりやすく表すことができる
- ( ) 9. 日時や場所など二つの観点から表を読むことができる
- ( ) 10. 棒グラフから最大値や最小値、項目間の関係、全体の特徴などを読み取ることができる

#### **⑤「算数的活動」**

- ( ) 1. 整数、小数及び分数についての計算の意味や計算の仕方を具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明することができる
- ( ) 2. 小数及び分数を具体物、図、数直線を用いて表すことができる
- ( ) 3. 小数及び分数を具体物、図、数直線を用いて比べることができる
- ( ) 4. 長さ、体積、重さのそれぞれについて単位の関係を調べることができる
- ( ) 5. 定規とコンパスを用いて二等辺三角形や正三角形を作図することができる
- ( ) 6. 日時や場所などの観点から資料を分類整理し、表を用いて表すことができる

## 【4年生】

1. 該当学年の各領域等で、すでに学習した内容について下枠【A欄】の1～4の該当するいずれかの番号を括弧内に記入してください。
2. 【A欄】の1～4のうちで本児童の習得状況を回答することが難しい場合は、【B欄】のa～cのいずれかの該当する理由を選択し、a～cの英字を括弧内に記入してください。

### 【A欄】

1. よくあてはまる
2. まあまああてはまる
3. あまりあてはまらない
4. まったくあてはまらない

### 【B欄】

- a. 習得の状況を把握できておらず、わからない
- b. 年間指導計画に予定しているが、現時点では未学習
- c. 年間指導計画に予定しておらず、本児童では取り上げない

## ①「数と計算」

- ( ) 1. 億、兆の単位を用いて数を表すことができる
- ( ) 2. 概数の意味を理解し、表すことができる (例：野球場の入場者や現在の我が国の人口等)
- ( ) 3. 「以上」、「以下」、「未満」の意味を理解することができる
- ( ) 4. 四捨五入ができる
- ( ) 5. 和、差、積、商を概数で計算することができる (例：買い物の場面での支払い仕方等)
- ( ) 6. 除数が1位数で被除数が2位数や3位数の筆算ができる

$$\begin{array}{r} 12 \\ 8 \overline{)96} \\ \underline{8} \\ 16 \\ \underline{16} \\ 0 \end{array} \qquad \begin{array}{r} 240 \cdots 2 \\ 4 \overline{)962} \\ \underline{8} \\ 16 \\ \underline{16} \\ 2 \end{array}$$

(例：96÷8=12、962÷4=240あまり2)

- ( ) 7. 除数が2位数で被除数が2位数や3位数の筆算ができる

$$\begin{array}{r} 8 \cdots 3 \\ 12 \overline{)99} \\ \underline{96} \\ 3 \end{array} \qquad \begin{array}{r} 23 \cdots 15 \\ 24 \overline{)567} \\ \underline{48} \\ 87 \\ \underline{72} \\ 15 \end{array}$$

(例：99÷12=8あまり3、567÷24=23あまり15)

- ( ) 8. 「96mのリボンは、24mのリボンの何倍の長さでしょう」などの文章題を読み取り、「もとにする量」、「比べる量」から「倍」を求めることができる
- ( ) 9. 「黄色のリボンの長さは72mで、白いリボンの長さの4倍です。白いリボンの長さは何mでしょう」などの文章題を読み取り、「比べる量」、「倍」から「もとにする量」を求めることができる
- ( ) 10. 2位数÷1位数などの除法の計算が暗算でできる

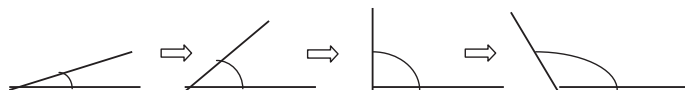
- ( ) 1 1. 余りのある除法において、被除数、除数、商、余りの間の関係を、(被除数) = (除数) × (商) + (余り) の式で表すことができる
- ( ) 1 2. 除数及び被除数に同じ数をかけても、同じ数で割っても商は変わらないことを理解することができる (例 :  $600 \div 200 = 3$ 、 $6 \div 2 = 3$ )
- ( ) 1 3. 整数の四則計算の能力が定着している
- ( ) 1 4. 整数の四則計算を生活や学習に活用することができる
- ( ) 1 5.  $\frac{1}{100}$  や  $\frac{1}{1000}$  などを単位とした小数を表すことができる
- ( ) 1 6.  $\frac{1}{100}$  の位までの小数の加法の計算ができる
- ( ) 1 7.  $\frac{1}{100}$  の位までの小数の減法の計算ができる
- ( ) 1 8. 乗数が整数の場合の小数の乗法の計算ができる (小数 × 整数)
- ( ) 1 9. 除数が整数の場合の小数の除法の計算ができる (小数 ÷ 整数)
- ( ) 2 0. 真分数、仮分数、帯分数の意味を理解することができる
- ( ) 2 1. 表し方が違っていても大きさの等しい分数を理解することができる (例 :  $\frac{1}{2}$  と  $\frac{2}{4}$  など)
- ( ) 2 2. 仮分数や帯分数でも同分母の分数の加法の計算ができる (例 :  $\frac{7}{5} + \frac{6}{5}$ )
- ( ) 2 3. 仮分数や帯分数でも同分母の分数の減法の計算ができる (例 :  $\frac{7}{4} - \frac{3}{4}$ )
- ( ) 2 4. そろばんを用いて億や兆の単位を含む簡単な加法及び減法の計算ができる
- ( ) 2 5. そろばんを用いて  $\frac{1}{100}$  の位までの小数の簡単な加法及び減法の計算ができる

## ②「量と測定」

- ( ) 1. 面積の単位 (c m<sup>2</sup>、m<sup>2</sup>、k m<sup>2</sup>) を理解することができる
- ( ) 2. m<sup>2</sup>、k m<sup>2</sup> とアール (a)、ヘクタール (ha) の関係を理解することができる
- ( ) 3. (縦) × (横) などの公式を用いて正方形、長方形の面積を求めることができる



- ( ) 4. 角の大きさを回転の大きさとして理解することができる



- ( ) 5. 角の大きさを単位 (度 (°)) を使い、表すことができる

- ( ) 6. 分度器を用いて角の大きさを測定することができる

- ( ) 7. 分度器を用いて必要な大きさの角をつくることができる

### ③「図形」

- ( ) 1. 直線の垂直の関係について理解することができる

- ( ) 2. 直線の平行の関係について理解することができる

- ( ) 3. 平行四辺形について理解することができる

- ( ) 4. ひし形について理解することができる

- ( ) 5. 台形について理解することができる

- ( ) 6. 対角線の意味を理解することができる

- ( ) 7. 立方体について理解することができる

- ( ) 8. 直方体について理解することができる

- ( ) 9. 立方体、直方体の見取り図をかくことができる

- ( ) 10. 立方体、直方体の展開図をかくことができる

- ( ) 11. 平面上や空間の中にあるものの位置を縦と横、縦と横と高さなどを用いて表すことができる (例: 横 3 m、縦 4 m、横 3 m・縦 4 m・高さ 2 m など)

### ④「数量関係」

- ( ) 1. 伴って変わる二つの数量の関係を表やグラフに表すことができる

- ( ) 2. 折れ線グラフから二つの変化する数量の間にある関係を読み取ることができる

- ( ) 3. 四則の混合した式について理解し、正しく計算できる (例:  $4+5\times 6$  など)

- ( ) 4. ( ) を用いた式について理解し、正しく計算できる (例:  $(4+5)\times 6$  など)

- ( ) 5. 四則を混合させたり、( ) を用いたりして一つの式に表すことができる

- ( ) 6. 変量を□、△などの記号を用いて式に表すことができる (例：□×4=△など)
- ( ) 7. 交換法則、結合法則、分配法則を活用して計算することができる
- ( ) 8. 資料を二つの観点から分類整理し、表に表すことができる

		カラオケ		合計
		好き	嫌い	
ダンス	好き	ア	イ	
	嫌い	エ	オ	
合計				

(例 ア. ダンスが好き、カラオケも好き    イ. ダンスが好き、カラオケは嫌い  
 ウ. ダンスは嫌い、カラオケは好き    エ. ダンスは嫌い、カラオケも嫌い の4つの場合が考えられる。)

- ( ) 9. 資料を調べるときに、読み飛ばしや数え間違いがないように順序よく数えたり、数えた資料に色や印を付けたりすることができる
- ( ) 10. 資料を目的に応じて折れ線グラフに表すことができる
- ( ) 11. 折れ線グラフを読み取ったり調べたりすることができる

### ⑤「算数的活動」

- ( ) 1. 目的に応じて計算の結果の見積もりをし、計算の仕方や結果について適切に判断することができる
- ( ) 2. 長方形を組み合わせた図形の求め方を具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明することができる
- ( ) 3. 身の回りにあるものの面積を実際に測定することができる
- ( ) 4. 平行四辺形、ひし形、台形で平面を敷き詰めて、図形の性質を調べることができる
- ( ) 5. 身の回りから伴って変わる二つの数量を見つけ、数量の関係を表やグラフを用いて表し、調べることができる

## 【5年生】

1. 該当学年の各領域等で、すでに学習した内容について下枠【A欄】の1～4の該当するいずれかの番号を括弧内に記入してください。
2. 【A欄】の1～4のうちで本児童の習得状況を回答することが難しい場合は、【B欄】のa～cのいずれかの該当する理由を選択し、a～cの英字を括弧内に記入してください。

### 【A欄】

1. よくあてはまる
2. まあまああてはまる
3. あまりあてはまらない
4. まったくあてはまらない

### 【B欄】

- a. 習得の状況を把握できておらず、わからない
- b. 年間指導計画に予定しているが、現時点では未学習
- c. 年間指導計画に予定しておらず、本児童では取り上げない

## ①「数と計算」

- ( ) 1. 整数を偶数と奇数に類別できる
- ( ) 2. 約数や倍数の意味を理解することができる（最大公約数や最大公倍数を含む）
- ( ) 3. 10倍、100倍、 $\frac{1}{10}$ 、 $\frac{1}{100}$ 等の数の大きさの関係を理解することができる
- ( ) 4. 小数点の位置に着目し、整数に置き換えて小数の計算ができる（例： $30 \times 2.5 = 30 \times 25 \div 10$ ）
- ( ) 5. 表記は違っていても分数と整数、小数は同様の数であることを理解することができる（例： $2 = \frac{2}{1}$ 、 $0.13 = \frac{13}{100}$ ）
- ( ) 6. 小数の乗法の計算ができる（小数×小数）
- ( ) 7. 小数の除法の計算ができる（小数÷小数）
- ( ) 8. 小数の場合にも分配法則が成立することを理解することができる（例： $30 \times 2.5 = 30 \times 2 + 30 \times 0.5$ ）
- ( ) 9. 分数には同じ大きさの表し方が幾通りもあることを理解することができる（例： $\frac{2}{3} = \frac{4}{6}$ ）
- ( ) 10. 分数の大小比較ができる
- ( ) 11. 約分や通分の意味を理解することができる
- ( ) 12. 異分母の分数の加法の計算ができる
- ( ) 13. 異分母の分数の減法の計算ができる
- ( ) 14. 乗数が整数である場合の分数の乗法の計算ができる（分数×整数）

( ) 15. 除数が整数である場合の分数の除法の計算ができる (分数÷整数)

## ②「量と測定」

( ) 1. 三角形の面積を求めることができる

( ) 2. 平行四辺形、ひし形及び台形の面積を求めることができる

( ) 3. 体積の単位 ( $\text{cm}^3$ 、 $\text{m}^3$ ) について理解することができる

( ) 4. 立方体や直方体の体積を計算で求めることができる

( ) 5. 測定した値の平均を求めることができる

( ) 6. 異なる2つの量の割合としてとらえられる数量 (例：人口密度) の比べ方や表し方を理解することができる (単位量当たりの大きさ)

## ③「図形」

( ) 1. 多角形や正多角形の性質について理解することができる

( ) 2. 図形の合同について理解することができる

( ) 3. 円周率の意味を理解することができる

( ) 4. 角柱や円柱の性質について理解することができる

( ) 5. 角柱や円柱の見取り図をかくことができる

( ) 6. 角柱や円柱の展開図をかくことができる

## ④「数量関係」

( ) 1. 簡単な比例の関係を理解できる (例：一方が2倍になれば、他方も2倍になる)

( ) 2. 比例の関係を表から読み取ったり表にかいたりすることができる

( ) 3. 割合を百分率や歩合で表すことができる

( ) 4. 割合を示すのに円グラフや帯グラフを用いることができる

## ⑤「算数的活動」

( ) 1. 小数についての計算の仕方を言葉、数、式、図などを用いて考え説明することができる

( ) 2. 三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方を具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明することができる

( ) 3. 合同な図形をかいたり、作ったりすることができる

- ( ) 4. いろいろな三角形を調べることを通して、三角形の角の和が  $180^\circ$  になることを考え、説明することができる (帰納的な考え方ができる)
- ( ) 5. 三角形の角の和が  $180^\circ$  になることを基にして、四角形の角の和が  $360^\circ$  になることを考え、説明することができる (演繹的な考え方ができる)
- ( ) 6. 目的に応じて適切な表やグラフを選び、活用することができる

## 【6年生】

1. 該当学年の各領域等で、すでに学習した内容について下枠【A欄】の1～4の該当するいずれかの番号を括弧内に記入してください。
2. 【A欄】の1～4のうちで本児童の習得状況を回答することが難しい場合は、【B欄】のa～cのいずれかの該当する理由を選択し、a～cの英字を括弧内に記入してください。

### 【A欄】

1. よくあてはまる
2. まあまああてはまる
3. あまりあてはまらない
4. まったくあてはまらない

### 【B欄】

- a. 習得の状況を把握できておらず、わからない
- b. 年間指導計画に予定しているが、現時点では未学習
- c. 年間指導計画に予定しておらず、本児童では取り上げない

## ①「数と計算」

- ( ) 1. 乗数が分数である場合の分数の乗法の計算ができる (例： $20 \times \frac{1}{6}$ )
- ( ) 2. 除数が分数である場合の分数の除法の計算ができる (例： $21 \div \frac{5}{8}$ )
- ( ) 3. 小数及び分数の四則計算ができる
- ( ) 4. 小数及び分数の四則計算を活用することができる

## ②「量と測定」

- ( ) 1. 身の回りにある図形の概形をとらえることができる
- ( ) 2. おおよその面積を求めることができる
- ( ) 3. 円の面積を計算によって求めることができる
- ( ) 4. 角柱や円柱の体積を計算によって求めることができる (例：底面積×高さ)
- ( ) 5. 速さの意味 (単位時間あたりに移動する長さにとらえると、(速さ) = (長さ) ÷ (時間) と表される) を理解することができる
- ( ) 6. 移動する長さや時間の2つの量から速さを求めることができる
- ( ) 7. メートル法の単位の仕組みを理解することができる

## ③「図形」

- ( ) 1. 二つの図形の測定を通して、縮図や拡大図の意味や特徴を理解することができる
- ( ) 2. 縮図や拡大図を作図することができる
- ( ) 3. 線対称な図形の意味や特徴を理解することができる

- ( ) 4. 点対称な図形の意味や特徴を理解することができる
- ( ) 5. 対称性という視点から既習の図形を弁別することができる (例：線対称の視点から三角形を見ると、二等辺三角形と正三角形はそれぞれ線対称な図形である)

#### ④「数量関係」

- ( ) 1. 比の意味について理解することができる
- ( ) 2. 比の記号を用いて表すことができる (例： $a : b$ )
- ( ) 3. 比例の関係について理解することができる (例：一方の量が2倍になると、他方も2倍になる)
- ( ) 4. 反比例の関係について理解することができる
- ( ) 5.  $a$  や  $x$  等の文字を用いて数量を式に表したり、文字に数を当てはめたりすることができる
- ( ) 6. 資料の代表値としての平均について理解することができる
- ( ) 7. 度数分布を表す表やグラフを読み取ることができる
- ( ) 8. 度数分布を表す表やグラフをかくことができる
- ( ) 9. 起こり得る場合を想定して順序よく整理することができる (例：4人が一列に並ぶ場合特定のAに着目してAが先頭に立つ場合、2番目はBのように考え、先頭がAの他にもB、C、Dとあることから全部で24通りある)

#### ⑤「算数的活動」

- ( ) 1. 分数の計算の意味や仕方を言葉や数、式、図、数直線を用いて説明することができる
- ( ) 2. 身の回りで使われている様々な量の単位の関係に気づくことができる
- ( ) 3. 身の回りで使われている縮図や拡大図に気づき、実際に活用することができる
- ( ) 4. 模様や地図記号等、身の回りで対称な図形が使用されていることに気づくことができる
- ( ) 5. 身の回りから比例の関係にある2つの数量を見つけることができる
- ( ) 6. 比例の関係を用いて効率よく問題を解決することができる

6-2-1. 本児童が、算数科の学習を行う上で認められる特徴についてお尋ねします。下枠内の1～4の該当するいずれかの番号を括弧内に記入してください。なお、判断が難しい項目については、「5. 判断できない」を選択してください。また、「その他」の特徴があれば、ご記入ください。

- |                                                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. よくあてはまる</li><li>2. まあまああてはまる</li><li>3. あまりあてはまらない</li><li>4. まったくあてはまらない</li><li>5. 判断できない</li></ol> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- ( ) 1. 教科書やテスト等の問題を順番通りに解くことに固執する
- ( ) 2. 他の課題でも同じ方法を用いることに固執する
- ( ) 3. 正確に測定したり、作図することに固執する
- ( ) 4. 自分の間違いを修正することができない
- ( ) 5. 回答を導き出すまでの過程（例えば、計算の途中式等）を示すことを拒む
- ( ) 6. 特定の領域に強い興味や関心をもつ
- ( ) 7. 特定の領域に強い苦手意識をもつ
- ( ) 8. 問題の順番や表現が変わると類似した内容の問題を解くことができない
- ( ) 9. 文章題の意味理解（読み取り）ができない
- ( ) 10. 文章や絵、式等から作問することができない
- ( ) 11. 立体図形の見えない部分といった視覚的にとらえられないものをイメージできない
- ( ) 12. 定規やコンパス、分度器等の用具を上手に使用できない
- ( ) 13. わからないことがあっても自ら質問したり、支援を求めない
- ( ) 14. わからないことがあっても、教科書やノート等から既習した内容を確認しない
- ( ) 15. 一度、学習した内容を繰り返し行うことを拒む
- ( ) 16. その他

--



6-2-2. 6-2-1で回答された本児童が算数科の学習を行う上で認められる特徴に対して、どのような手だてや工夫をされているか、それぞれご記述ください。  
「特に手だてや工夫をしていない」場合は、「特になし」に○をつけてください。

6-2-1の 項目番号	6-2-1で回答いただいた本児童に認められる特徴に対する手だてや工夫の内容	
1	特になし	
2	特になし	
3	特になし	
4	特になし	
5	特になし	
6	特になし	
7	特になし	
8	特になし	
9	特になし	
10	特になし	
11	特になし	
12	特になし	
13	特になし	
14	特になし	
15	特になし	
16	特になし	

6-3. どのような方法を用いて、本児童の算数科の習得状況を評価していますか。該当する項目に○をつけてください。「その他」を選択された方は、括弧内にご記入ください。

- ( ) 1. 当該学年の学級と同様の規準や基準を用いて評価している
- ( ) 2. 特別支援学級で作成している個別の指導計画を用いて評価している
- ( ) 3. 1と2を併用して評価している
- ( ) 4. その他 ( )

以上で終わります。ご協力ありがとうございました。

**自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある生徒の  
数学科の学習に関する調査**

**《調査票ご記入にあたってのお願い》**

以下の事項についてご留意いただき、ご記入をお願いいたします。

**●記入方法について**

**1. 本アンケートにご回答いただく方**

貴校の自閉症・情緒障害特別支援学級を担任されている方（非常勤講師や介助員は含みません）にご記入をいただくようお願いいたします。

なお、数学科の指導において特別支援学級の担任以外の先生が携わっている場合は、担当の先生とご相談のうえ本調査票にご回答ください。

貴校に自閉症・情緒障害特別支援学級が複数設置されている場合は、お手数ですが、1学級ごとに本調査用紙を1部コピーしていただき、ご回答ください。

**2. 本調査票への回答の方法**

ご回答いただく生徒については、以下の条件を満たす生徒を1名取り上げてください。

- ①貴校の自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある生徒
- ②主として当該学年の数学の教科書の内容を学習していること

貴校に自閉症・情緒障害特別支援学級が設置されていない、あるいはご担当の学級に上記条件に該当する生徒が在籍していない場合は、本調査にご回答いただかなくて結構です。

自閉症・情緒障害特別支援学級の設置状況と自閉症のある生徒の在籍状況を把握したいので、該当されない場合にはお手数ですが本表紙裏面のファックス送信票をご返送ください。

**●ご回答、ご返送いただいた情報の取扱と結果の公表について**

結果の公表にあたっては、学校名や個人が特定できないように統計的な処理を行います。また、調査結果につきましては、別途、web上でご報告いたします。

**●締め切り**

同封の返信用封筒にて、平成25年1月25日（金）までにご返送いただきますようお願いいたします。

以上、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

**【問い合わせ先】**

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所  
〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1  
教育情報部主任研究員 岡本 邦広（研究代表代行）  
TEL:046-839-6932（直通）  
E-mail:okamoto@nise.go.jp  
教育情報部研究員 柳澤 亜希子（研究副代表）  
TEL/FAX:046-839-6876（直通）  
E-mail:yanagisawa@nise.go.jp

# F A X 送信票

\* 貴校に自閉症・情緒障害特別支援学級が設置されていない、あるいは、ご担当の学級に本調査に該当する生徒が在籍していない場合、本送信票をご返送ください。

送信日 月 日

## 【送信先】

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 教育情報部

柳澤 亜希子 宛

FAX: 0 4 6 - 8 3 9 - 6 8 7 6

件名：自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある生徒の数学科の  
学習に関する調査について（回答）

該当する項目にチェックをしてください。

本校には、自閉症・情緒障害特別支援学級は設置されていません。

本学級には、調査対象に該当する生徒は在籍していません。

## 【発信先】

学校名 \_\_\_\_\_

連絡先（TEL） \_\_\_\_\_

貴校の学校名及び調査票に回答された方のお名前等をご記入ください。

学校名	立 中学校
	連絡先 住 所： 電話番号：
記入者氏名	

I. 貴校の自閉症・情緒障害特別支援学級についてお尋ねします。

1-1. 貴校に設置されている自閉症・情緒障害特別支援学級の学級数をご記入ください。

( ) 学級

1-2. 自閉症・情緒障害特別支援学級を担任されている先生の人数をご記入ください。

( ) 名

1-3-1. 自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する生徒の各学年の内訳をご記入ください。(在籍生徒がない場合は、「0」を記入してください)。

	1年	2年	3年
在籍生徒数(名)			

1-3-2. 1-3-1の各学年に在籍する生徒のうち、自閉症のある生徒の人数をご記入ください(在籍生徒がない場合は、「0」を記入してください)。

	1年	2年	3年
自閉症のある 生徒数(名)			

Ⅱ. 本調査票にご記入いただいている方の「教員経験年数」と「所有する免許状」についてお尋ねします。

2-1. 「教員経験年数」と「自閉症・情緒障害特別支援学級の経験年数」をご記入ください。また、「知的障害特別支援学級」、「特別支援学校（養護学校）」、「通級による指導」、「通常の学級」の経験の有無と「経験あり」の場合には、その年数を括弧内にご記入ください。ただし、年数には、非常勤講師の年数は含みません。また、「経験あり」の場合には、自閉症のある児童生徒を担当した経験の有無について該当する項目に○をつけてください。

2-1-1. 教員経験年数	( ) 年
2-1-2. 自閉症・情緒障害特別支援学級の経験年数	( ) 年
2-1-3. ①知的障害特別支援学級の経験年数	( ) 1. 経験あり ( ) 年 ( ) 2. 経験なし
②知的障害特別支援学級で自閉症のある児童生徒を担当した経験の有無	( ) 1. 経験あり ( ) 2. 経験なし
2-1-4. ①特別支援学校（養護学校）の経験年数	( ) 1. 経験あり ( ) 年 ( ) 2. 経験なし
②特別支援学校（養護学校）で自閉症のある児童生徒を担当した経験の有無	( ) 1. 経験あり ( ) 2. 経験なし
2-1-5. ①通級による指導の経験年数	( ) 1. 経験あり ( ) 年 ( ) 2. 経験なし
②通級による指導で自閉症のある児童生徒を担当した経験の有無	( ) 1. 経験あり ( ) 2. 経験なし
2-1-6. ①通常の学級の経験年数	( ) 1. 経験あり ( ) 年 ( ) 2. 経験なし
②通常の学級で自閉症のある児童生徒を担当した経験の有無	( ) 1. 経験あり ( ) 2. 経験なし

2-2. 所有されている免許状についてお尋ねします。該当する項目に○をつけてください。

- ( ) 1. 小学校教諭普通免許状
- ( ) 2. 中学校教諭普通免許状（数学）
- ( ) 3. 高等学校教諭普通免許状（数学）
- ( ) 4. 特別支援学校（養護学校）教諭普通免許状



3-5. 本生徒が、学校生活を送る上で必要な支援の程度として該当する項目に○をつけてください。

- ( ) 1. 必要に応じて支援
- ( ) 2. 特定の環境において常時支援が必要
- ( ) 3. 様々な環境において常時支援が必要

IV. IIIで回答いただいた生徒に適用されている数学科及び国語科の指導内容についてお尋ねします。

4-1-1. 本生徒に適用している数学科の指導内容をご記入ください（該当する項目に○をつけてください）。

- ( ) 1. すべて当該学年の指導内容を適用
- ( ) 2. 一部、下学年の指導内容を適用

4-1-2. 4-2-1で「2. 一部、下学年の指導内容を適用」を選択された方は、該当する領域を選択してください。また、その領域で適用している下学年の学年をご記入ください。

- ( ) 1. 数と式  
適用している下学年の学年 ( ) 年
- ( ) 2. 図形  
適用している下学年の学年 ( ) 年
- ( ) 3. 関数  
適用している下学年の学年 ( ) 年
- ( ) 4. 資料の活用  
適用している下学年の学年 ( ) 年

4-2. 本生徒に適用している国語科の指導内容をご記入ください（該当する項目に○をつけてください）。

- ( ) 1. すべて当該学年の指導内容を適用
- ( ) 2. 一部、下学年の指導内容を適用

V. 本生徒が数学科の指導を受けている場と主な指導者についてお尋ねします。

5-1-1. 本生徒が数学科の指導を受けている場について、該当する項目に○をつけてください。

- ( ) 1. すべて交流先（通常の学級）で学習している
- ( ) 2. 主に交流先（通常の学級）で学習している
- ( ) 3. 主に特別支援学級で学習している
- ( ) 4. すべて特別支援学級で学習している
- ( ) 5. その他 ( )



5-1-2. 本生徒の数学科の主な指導者についてお尋ねします。該当する項目に○をつけてください。

- ( ) 1. 数学科の担当者が指導している
- ( ) 2. 数学科の免許を所有した特別支援学級の担当者が指導している
- ( ) 3. 数学科の担当者が主導で、特別支援学級の担当者と一緒に指導している
- ( ) 4. 特別支援学級の担当者が主導で、数学科の担当者と一緒に指導している
- ( ) 5. その他 ( )

5-1-3. 5-1-1で「3. 主に特別支援学級で学習している」または、「4. すべて特別支援学級で学習している」を選択された方にお尋ねします。その理由として該当する項目に○をつけてください。「その他」を選択された方は、括弧内にその理由をご記入ください。

- ( ) 1. 本生徒の自閉症の特性から派生する心理面や行動面等の問題に配慮するため
- ( ) 2. 本生徒の数学科の習得状況に応じるため
- ( ) 3. 交流先において本児童の受け入れ体制が十分ではないため
- ( ) 4. その他 ( )

VI. 本生徒が、数学科の習得状況と数学科の学習を行う上で認められる特徴についてお尋ねします。

6-1. 本生徒の数学科の4領域（「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」）と「数学的活動」の習得状況についてお尋ねします。

該当学年の各領域等で、すでに学習した内容について下枠【A欄】の1～4の該当するいずれかの番号を括弧内に記入してください。

注1) 本生徒が下学年の内容を適用している場合は、そちらの学年についてもご回答ください。

注2) 【A欄】の1～4のうちで本生徒の習得状況を回答することが難しい場合は、【B欄】のa～cのいずれかの該当する理由を選択し、a～cの英字を括弧内に記入してください。

**【A欄】**

- 1. よくあてはまる
- 2. まあまああてはまる
- 3. あまりあてはまらない
- 4. まったくあてはまらない

**【B欄】**

- a. 習得の状況を把握できておらず、わからない
- b. 年間指導計画で予定しているが、現時点では未学習
- c. 年間指導計画に予定しておらず、本児童では取り上げない

## 【1年生】

### ①「数と式」

- ( ) 1. 正の数と負の数の意味を理解することができる
- ( ) 2. 小学校で学習した数の四則計算と関連づけて、正の数と負の数の四則計算の意味を理解することができる（例： $3-2$ は減法と見るが、 $(+3)+(-2)$ は加法と見ることができる）
- ( ) 3. 正の数と負の数の四則計算ができる
- ( ) 4. 正の数と負の数の計算でも交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解することができる
- ( ) 5. 例えば最高気温の前日との差など具体的な場面で正の数と負の数を用いることができる
- ( ) 6. 数量の関係や法則を簡潔、明瞭、一般的に表現することができるといったように、文字を用いた式の必要性や意味を理解することができる（例： $2+3=3+2 \rightarrow a+b=b+a$ ）
- ( ) 7. 文字を用いた式（乗法と除法）では、文字間や数と文字間では記号を省略することを理解することができる（例： $a \times b=ab$ 、 $a \div b=\frac{b}{a}$ 、 $a \times a=a^2$ ）
- ( ) 8. 一次式の加法の計算ができる（例： $(2x-3)+(x+1)$ ）
- ( ) 9. 一次式の減法の計算ができる（例： $(2x-3)-(x+1)$ ）
- ( ) 10. 文字を用いた式を用いて数量の関係や法則などを表すことができる  
（例：入館料が大人1人  $a$  円、子ども1人  $b$  円するとき、大人1人と子ども2人の入館料の合計は「 $a+2b$ 」と表す）
- ( ) 11. 文字を用いた式の意味を読み取ることができる  
（例：入館料が大人1人  $a$  円、子ども1人  $b$  円するとき、 $a-b$  は大人と子どもの入館料の差ととらえることができる）
- ( ) 12. 不等号を用いて数量の大小関係を式に表すことができる（例： $a+2b < 1000$ ）
- ( ) 13. 等式の性質（例： $a=b$  ならば  $a+c=b+c$  等）を基にして式を変形することができる
- ( ) 14. 一元一次方程式を解くことができる
- ( ) 15. 方程式を解いた後に、その解がはじめの問題の答えとして適切であったか確認することができる
- ( ) 16. 文章題の中の数量やその関係から方程式をつくることができる

- ( ) 17. 比を基にして数量を求めるような具体的な場面において一元一次方程式を用いることができる

## ②「図形」

- ( ) 1. 角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの作図ができる
- ( ) 2. 図形の対称性や図形の要素に着目して自分で作図の手順を考えることができる
- ( ) 3. 自分なりの言葉で作図の過程を説明することができる
- ( ) 4. 図形の移動（平行移動、対称移動、回転移動）を理解することができる
- ( ) 5. 図形の移動（平行移動、対称移動、回転移動）を通して図形の性質をとらえることができる
- ( ) 6. 空間において直線や平面がどのような位置関係（垂直、平行、ねじれの位置）にあるのか考えることができる
- ( ) 7. 平面図形の運動から空間図形の構成をとらえることができる
- ( ) 8. 見取り図や展開図、投影図等から空間図形の性質を読み取ることができる
- ( ) 9. 扇形の弧の長さや面積を求めることができる
- ( ) 10. 柱体、錐体及び球の表面積と体積を求めることができる

## ③「関数」

- ( ) 1. 関数関係とは、「関係する2つの数量について、一方の値を決めれば他方の値がただ1つ決まる関係」であることを理解することができる
- ( ) 2. 変域を負の数まで拡張して比例の関係をとらえることができる
- ( ) 3. 変域を負の数まで拡張して反比例の関係をとらえることができる
- ( ) 4. 座標の意味を理解することができる
- ( ) 5. 変数  $x$ 、 $y$  の関係を見出し、比例や反比例の関係を式に表すことができる（例： $y=ax$ 、 $\frac{y}{x}=a$ ）
- ( ) 6. 比例 ( $y=ax$ ) の関係をグラフに表すことができる
- ( ) 7. 反比例 ( $\frac{y}{x}=a$ ) の関係をグラフに表すことができる
- ( ) 8. 比例、反比例のグラフの特徴を理解することができる

- ( ) 9. 日常的な事象の中から比例や反比例を見出し、説明することができる

#### ④「資料の活用」

- ( ) 1. ヒストグラムから資料の分布の様子をとらえることができる
- ( ) 2. 代表値（平均値、中央値、最頻値）の意味を理解することができる
- ( ) 3. 相対度数の意味を理解することができる
- ( ) 4. ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向を説明することができる
- ( ) 5. コンピューターを用いて資料を表やグラフに整理することができる
- ( ) 6. 近似値や誤差の意味を理解することができる
- ( ) 7. 近似値を式で表し、それに基づき誤差の見積もりができる（例：2300m は  $2.30 \times 10^3$  m）

#### ⑤「数学的活動」

- ( ) 1. 既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見いだすことができる
- ( ) 2. 日常生活で数学を利用することができる
- ( ) 3. 数学的な表現を用いて、自分なりに説明し伝え合うことができる

## 【2年生】

1. 該当学年の各領域等で、すでに学習した内容について下枠【A欄】の1～4の該当するいずれかの番号を括弧内に記入してください。
2. 【A欄】の1～4のうちで本生徒の習得状況を回答することが難しい場合は、【B欄】のa～cのいずれかの該当する理由を選択し、a～cの英字を括弧内に記入してください。

### 【A欄】

1. よくあてはまる
2. まあまああてはまる
3. あまりあてはまらない
4. まったくあてはまらない

### 【B欄】

- a. 習得の状況を把握できておらず、わからない
- b. 年間指導計画に予定しているが、現時点では未学習
- c. 年間指導計画に予定しておらず、本児童では取り上げない

## ①「数と式」

- ( ) 1. 整式の加法の計算ができる
- ( ) 2. 整式の減法の計算ができる
- ( ) 3. 単項式の乗法の計算ができる
- ( ) 4. 単項式の除法の計算ができる
- ( ) 5. 文字を用いた式で数量の関係を説明することができる（例：2つの奇数を  $m$ 、 $n$  を使用し、 $2m+1$ 、 $2n+1$  等）
- ( ) 6. 数量を表す式を目的に応じて変形することができる（例：三角形の面積の公式  $S=\frac{1}{2}ah$  から底辺  $a$  を求める等）
- ( ) 7. 二元一次方程式の解は、1つとは限らないことを理解することができる
- ( ) 8. 連立二元一次方程式の意味を理解することができる
- ( ) 9. 連立二元一次方程式を解くことができる
- ( ) 10. ある特定の数量の関係（長さの関係等）に着目して連立二元一次方程式を立式することができる

## ②「図形」

- ( ) 1. 平行線や角の性質について理解することができる
- ( ) 2. 根拠を明らかにして平行線や角の性質について説明することができる
- ( ) 3. 平行線や角の性質に基づいて多角形の角の性質を見出すことができる
- ( ) 4. 三角形の角の性質を基に多角形の内角や外角の和を求めることができる

- ( ) 5. 三角形の合同条件を理解することができる
- ( ) 6. 平行線の性質、三角形の合同条件などを基にして、三角形や平行四辺形の性質や条件を考察することができる
- ( ) 7. 証明を読むことを通して新たな図形の性質を見出すことができる

### **③「関数」**

- ( ) 1. 具体的な事象の中に一次関数を見出すことができる
- ( ) 2. 表、式、グラフから一次関数の特徴をとらえることができる
- ( ) 3. 一次関数の特徴を表、式、グラフと相互に関連づけて理解することができる
- ( ) 4. 二元一次方程式は、関数関係を表す式であることを理解することができる
- ( ) 5. 一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明することができる

### **④「資料の活用」**

- ( ) 1. 確率の意味を理解することができる
- ( ) 2. 起こり得るすべての場合を順序よく整理し、正しく数えることができる
- ( ) 3. 確率を求めることができる
- ( ) 4. 確率を根拠として不確定な事象（くじ引きなど）をとらえ、説明することができる

### **⑤「数学的活動」**

- ( ) 1. 既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見いだし、発展させることができる
- ( ) 2. 日常生活や社会で数学を利用することができる
- ( ) 3. 数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合うことができる

### 【3年生】

1. 該当学年の各領域等で、すでに学習した内容について下枠【A欄】の1～4の該当するいずれかの番号を括弧内に記入してください。
2. 【A欄】の1～4のうちで本生徒の習得状況を回答することが難しい場合は、【B欄】のa～cのいずれかの該当する理由を選択し、a～cの英字を括弧内に記入してください。

#### 【A欄】

1. よくあてはまる
2. まあまああてはまる
3. あまりあてはまらない
4. まったくあてはまらない

#### 【B欄】

- a. 習得の状況を把握できておらず、わからない
- b. 年間指導計画に予定しているが、現時点では未学習
- c. 年間指導計画に予定しておらず、本児童では取り上げない

### ①「数と式」

- ( ) 1. 正の数の平方根の意味を理解することができる
- ( ) 2. 平方根の乗法の計算ができる (例:  $\sqrt{a} \times \sqrt{b} = \sqrt{ab}$ )
- ( ) 3. 平方根の除法の計算ができる (例:  $\sqrt{a} \div \sqrt{b} = \sqrt{\frac{a}{b}}$ )
- ( ) 4. 平方根の加法及び減法の計算ができる (例:  $\sqrt{a} + \sqrt{b} \neq \sqrt{a+b}$ )
- ( ) 5. 単項式と多項式の乗法の計算ができる (例:  $2a \times (3a - 5b)$ )
- ( ) 6. 多項式を単項式で割る除法の計算ができる (例:  $(4x^2 + 6x) \div 2x$ )
- ( ) 7. 交換法則、結合法則、分配法則などを基にして一次式の乗法の計算ができる
- ( ) 8. 式の展開の公式を用いて式を効率よく処理することができる
- ( ) 9. 式の展開の公式を用いて因数分解ができる
- ( ) 10. 文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明することができる
- ( ) 11. 二次方程式の解の意味を理解することができる
- ( ) 12. 因数分解したり平方の形に変形したりして二次方程式を解くことができる
- ( ) 13. 解の公式を使って二次方程式を解くことができる
- ( ) 14. 二次方程式を具体的な場面で活用することができる

## ②「図形」

- ( ) 1. 平面図形の相似の意味を理解することができる
- ( ) 2. 三角形の相似条件を理解することができる
- ( ) 3. 与えられた図形に対して三角形の相似条件を活用することができる
- ( ) 4. 平行線と線分の比の性質を理解することができる
- ( ) 5. 基本的な立体の相似の意味を理解することができる
- ( ) 6. 相似な図形の相似比と面積比の関係を理解することができる
- ( ) 7. 相似な図形の相似比と体積比の関係を理解することができる
- ( ) 8. 相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる（例：屋根の傾斜と高さを求める問題）
- ( ) 9. 円周角と中心角の関係を理解することができる
- ( ) 10. 円周角と中心角の関係を活用して円の接線などの作図ができる
- ( ) 11. 三平方の定理の意味を理解することができる
- ( ) 12. 三平方の定理を用いて長方形の対角線の長さなどを求めることができる
- ( ) 13. 円周角と中心角の関係や三平方の定理などが証明できることを知る

## ③「関数」

- ( ) 1. 事象の中には、関数  $y = ax^2$  として捉えられるものがあることを理解することができる
- ( ) 2. 関数  $y = ax^2$  について、表、式、グラフを相互に関連づけて理解することができる
- ( ) 3. 関数  $y = ax^2$  を用いて具体的な事象（パラボナアンテナなど）をとらえて説明することができる
- ( ) 4. いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解することができる

## ④「資料の活用」

- ( ) 1. 標本調査の意味を理解することができる
- ( ) 2. 簡単な場合について標本調査を行うことができる
- ( ) 3. 標本調査により母集団の傾向をとらえて説明することができる



( ) 4. コンピューターを活用して標本調査を行うことができる

**⑤「数学的活動」**

( ) 1. 既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見だし、発展させることができる

( ) 2. 日常生活や社会で数学を利用することができる（例：三平方の定理を利用し、実測が困難な距離を求める）

( ) 3. 数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合うことができる

6-2-1. 本生徒が、数学科の学習を行う上で認められる特徴についてお尋ねします。下枠内の1～4の該当するいずれかの番号を括弧内に記入してください。なお、判断が難しい項目については、「5. 判断できない」を選択してください。また、「その他」の特徴があれば、ご記入ください。

- |                                                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. よくあてはまる</li><li>2. まあまああてはまる</li><li>3. あまりあてはまらない</li><li>4. まったくあてはまらない</li><li>5. 判断できない</li></ol> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- ( ) 1. 教科書やテスト等の問題を順番通りに解くことに固執する
- ( ) 2. 他の課題でも同じやり方を用いることに固執する
- ( ) 3. 正確に測定したり、作図することに固執する
- ( ) 4. 自分の間違いを修正することができない
- ( ) 5. 回答を導き出すまでの過程（例えば、計算の途中式等）を示すことを拒む
- ( ) 6. 特定の領域に強い興味や関心をもつ
- ( ) 7. 特定の領域に強い苦手意識をもつ
- ( ) 8. 問題の順番や表現が変わると類似した内容の問題を解くことができない
- ( ) 9. 文章題の意味理解（読み取り）ができない
- ( ) 10. 文章や絵、式等から作問することができない
- ( ) 11. 立体図形の見えない部分といった視覚的にとらえられないものをイメージできない
- ( ) 12. 定規やコンパス、分度器等の用具を上手に使用できない
- ( ) 13. わからないことがあっても自ら質問したり、支援を求めない
- ( ) 14. わからないことがあっても、教科書やノート等から既習した内容を確認しない
- ( ) 15. 一度、学習した内容を繰り返し行うことを拒む
- ( ) 16. その他

--

6-2-2. 6-2-1で回答された本生徒が数学科の学習を行う上で認められる特徴に対して、どのような手だてや工夫をされているかご記述ください。

「特に手だてや工夫をしていない」場合は、「特になし」に○をつけてください。

6-2-1の 項目番号	6-2-1で回答いただいた本生徒に認められる特徴に対する手だてや工夫の内容	
1		特になし
2		特になし
3		特になし
4		特になし
5		特になし
6		特になし
7		特になし
8		特になし
9		特になし
10		特になし
11		特になし
12		特になし
13		特になし
14		特になし
15		特になし

6-3. どのような方法を用いて、本生徒の数学科の習得状況を評価していますか。該当する項目に○をつけてください。「その他」を選択された方は、括弧内にご記入ください。

- ( ) 1. 当該学年の学級と同様の規準や基準を用いて評価している
- ( ) 2. 特別支援学級で作成している個別の指導計画を用いて評価している
- ( ) 3. 1と2を併用して評価している
- ( ) 4. その他 ( )

以上で終わります。ご協力ありがとうございました。